

他者意識を持った表現活動 ～オリジナル商品の企画を通しての「やりくり」～

林 真希

鳥取大学附属中学校 英語科
E-mail: hayashi-m@tottori-u.ac.jp

HAYASHI Maki(Tottori University Junior High School): **Expressive activities with the other person in mind— “Management” through the planning of original products**

要旨 — 生徒たちは1年次から「相手を意識した表現活動」に取り組んできた。3年目となる今回は、これまでの学習内容をやりくりしながら、設定された場面・条件の中で、「誰に・何を・どのように」発信するかを生徒一人一人が思考しながら英作文に取り組めたか、そして協同探究を通して、個々の学びをさらに深めていくことができたかをアンケートを基に考察した。

キーワード 相手意識, やりくり, 協同探究

Abstract — Students have been engaged in "expressive activities with the other person in mind" since the first grade, and this year, the third year of the program, we examined whether each student was able to engage in English composition while thinking about "to whom, what, and how" to communicate within the set situations and conditions, while working through the content of previous studies, and whether they were able to deepen their individual learning through cooperative exploration. Based on the questionnaire, we examined whether the students were able to further deepen their individual learning through cooperative exploration.

Key words — Considering the others, management, cooperative exploration

1. はじめに

1.1. 英語科の取り組み

本校英語科では「他者意識を持った自己表現活動」をテーマに生徒自身が伝える相手を想像し、自分の持っている知識や経験と結び付けながら思考し、表現する「やりくり授業」に取り組んできた。学習指導要領において「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」ということが目標として挙げられていることから、様々な場面設定の中で、必要な情報を判断・整理し、相手に伝わりやすい文を構成する活動を行ってきた。また活動の中で、藤村(2018)の協同的探究学習のプロセスを用い、生徒たちが、対話を通して自身の考えを広げたり、やりくりしながらより適切な英語表現をしようとする取り組みも取り組んできた。

1.2. 本研究の目的

本学年の生徒を担当して3年目になる。生徒たちは、表現活動として毎年鳥取県の紹介プロジェクトを行っている。1年次には、“What’s this?”クイズで鳥取県の場所や名産物など紹介した。2年次には、ツアーコンダクターになり、相手の希望に沿うプランを考えてプレゼンテーションを行った。生徒はこれまでの活動で、相手意識を大事にしながら、伝わりやすい文の構成について学習してきた。その中で、伝える相手によって伝える内容が変わるということに気付き、既習文法や表現を基にやりくりしながら、自分の考えや気持ち、理由などを自分の言葉で表現することを学んできた(林 2023)。3年目となる今回は「ご当地アイスクリームの提案文の作成」に取り組んだ。この活動を通して「誰に・何を・どのように」発信するかを思考しながら作成に取り組めたか、そしてクラスでの探究活動から得た気づきを個々の表現に取り入れ、さらに深めていこ

うとしたかを考察していく。

2. 実践授業と研究方法

2.1. 対象及び実践授業

鳥取大学附属中学校 3 年生(133 名)を対象とした。2023 年 7 月に、検定教科書 NEW CROWN English Series3 の Project1「日本限定のアイスクリームを提案しよう」という単元をもとに、鳥取の特産品を使いご当地アイスクリームを考案し、外国人観光客に売り込むという活動に取り組んだ。その際、鳥取の特産品を取り入れ魅力を伝えながら、相手に商品を 4~5 文で提案するという条件を設定した。原稿を完成させていく中で、目的・場面・状況に応じて、自分のまとめたいことを簡潔にまとめ、相手に伝わりやすいように話を展開していくといった提案の仕方も考えながら取り組んだ。

2.2. 授業における協同的探究学習

本実践では、藤村(2018)の協同的探究学習プロセス(図 1)に沿って、原稿作成を行った。

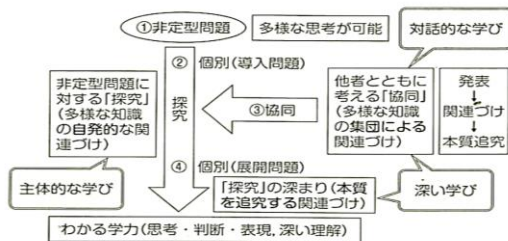


図 2-2 「協同的探究学習」が実現する「主体的・対話的で深い学び」

図 1 協同的探究学習(藤村 2018 より)

表 1 活動の流れ(個別探究と協同探究)

① 教科書のモデル文を確認	
② ワークシートにそって、アイスクリームのデザイン案をロイソノートで作成し、提案文をまとめ文章化する。	個別
③ 班で提案文を共有し、代表者を 1 人決める。	協同
④ 代表者はクラス全体に発表	協同
⑤ 全体の発表を聞き、良かった表現を全体で共有し、提案文では何が大切かを話し合いから気付く。	協同
⑥ 自分の原稿を振り返り加筆・修正	個別
⑦ アンケート記入	

表 1 の活動の流れに沿って、生徒はまずロイソノートでデザイン案(図 2)を作成しそれを基に原稿を作成した。原稿のアウトラインは教科書で紹

介されている Opening-Body-Closing という 3 段階の構成に沿って、前後のつながりを考えながら書いていった(図 3)。その際、デザイン案をどのように言語化すれば相手に伝わるか、商品の何をアピールすれば鳥取らしさをアピールできるか等を考えながら取り組んでいた。そして、全体発表時には、発表者の原稿がどう構成されているか、相手意識をどのように原稿に取り入れた文章になっているかを考えながら聞くことができた。



図 2 ロイソノートを使ったデザイン案

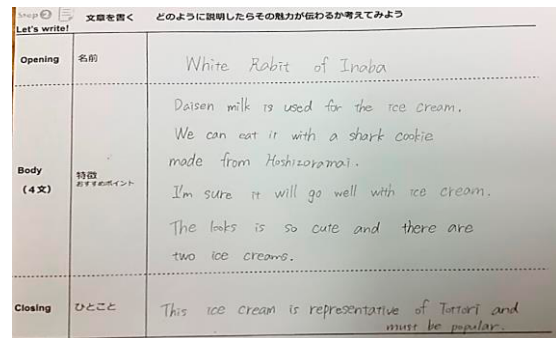


図 3 デザイン案を基に作成した原稿

2.3. 分析方法

授業後に質問に対する達成度を数値選択方式(5段階の星評価[5・4を肯定的, 2・1を否定的])で記入、且つ自由記述式のアンケート調査を実施した。そして生徒の自由記述回答を KHCorder3(樋口 2022)を使用して質的分析を行った。アンケートの質問内容を表 2 に示す。

表 2 アンケート質問内容

チェックポイント	達成度	理由・感想など
【質問 1】自分の考えたアイスクリームについて、書きたいことを整理して、まとまりのある文章を書けた。	☆☆☆☆	
【質問 2】商品に対する自分の気持ちや自信を書くことができた。	☆☆☆☆	
【質問 3】各班の代表の提案文を見て、自分の英文に反映した。	☆☆☆☆	
【質問 4】商品を提案するときの表現や構成について大切なことがわかった。	☆☆☆☆	

3. 結果および考察

3.1. 生徒の振り返りから見える結果

【質問1】では約8割の生徒が自分の考えを整理し、構成を考えながら書けたと回答している(図4)。

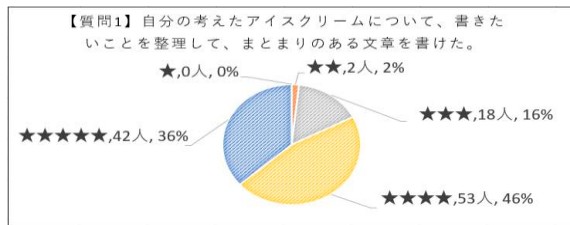


図4 【質問1】のアンケート結果

記述回答では「4文で伝えたいことが伝わるようにまとめて書くのを頑張った。」「自分の伝えたいことをパズルのように組み立てながら書いた。」という意見が多く見られた。限られた文の中で、自分の伝えたいことを判断し簡潔にまとめようとする生徒たちの努力が伺えた。

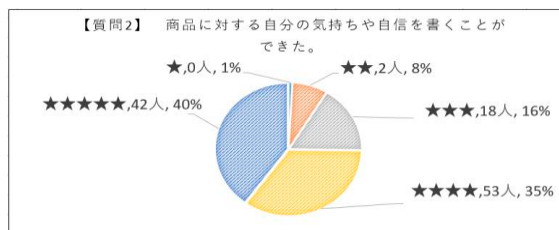


図5 【質問2】のアンケート結果

【質問2】に関しては、約75%の生徒が肯定的に答えている(図5)。「You should~という表現を使って自分の自信を伝えた。」「I think~と自分の気持ちを入れたり、You like it!で自信を表現することができた」と書いている生徒が多く見られた一方で、「商品説明の割合が多く、自分の気持ちや自信についてもっと多く書けばよかった。」「説明が多すぎて自分の気持ちを書けなかった。」などクラスでの発表をもとに自分の提案文を振り返っている意見も見られた。

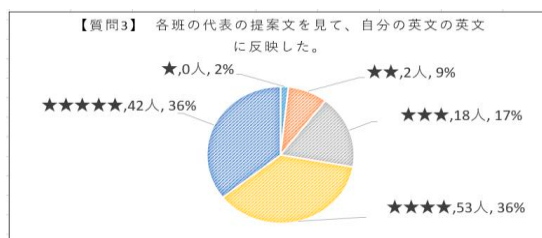


図6 【質問3】のアンケート結果

【質問3】の結果、約7割の生徒が何らかの形で自分の提案文に加筆や修正を行っていることがわかる(図6)。星評価5と4に多く見られた意見は、「相手を思う表現を付け加えることができた。」「いろいろな人の作品をみて、自分の足りていないことを見つけ、付け加えることができた。」「他の人の発表では聞いている人に対する問いかけがあって自分の文章にはなかったので付け加えた。」などである。星評価3と2を回答した生徒も同様の内容を書いている生徒が多かった。生徒の記述内容から、班やクラスでの共同探究での気づきを得たうえで、自己の英作文を俯瞰し、さらに良い提案文にしようとしている生徒が多かった。

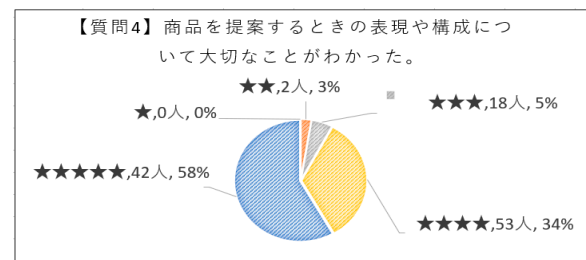


図7 【質問4】のアンケート結果

【質問4】の達成度の結果は図7の通りである。9割以上の生徒が肯定的に答えた。生徒の記述内容から、協同探究で生徒たちが何を深めることができたかを考察するためにKHCorder3による質的分析を行った。

質問で得られた回答に対して MeCab による形態素解析を行ったところ、912語抽出された。これらの語のうち出現回数が5回以上のものを分析対象とした(表2)。

表2 抽出語リスト

抽出語	品詞	頻度	抽出語	品詞	頻度
大切	形容動詞	56	魅力	名詞	13
相手	名詞	47	使う	動詞	10
思う	動詞	37	人	名詞	9
商品	名詞	28	伝わる	動詞	9
文	名詞	23	買う	動詞	9
提案	名詞	22	思い	思い	8
伝える	動詞	20	食べる	動詞	8
表現	名詞	20	問いかける	動詞	8
説明	名詞	17	呼びかける	動詞	7
自分	名詞	16	大事	形容動詞	6
書く	動詞	16	特徴	名詞	6
入れる	動詞	15	作る	動詞	5

そして抽出語と達成度との関係性を分析するた

め、外部変数を「達成度」と設定し共起ネットワークを作成した(図 8)。出現頻度が高い語ほど大きな円になり、共起関係が強くなるほど線を濃く設定した。また Degree はいくつの外部変数とつながっているかを表している。

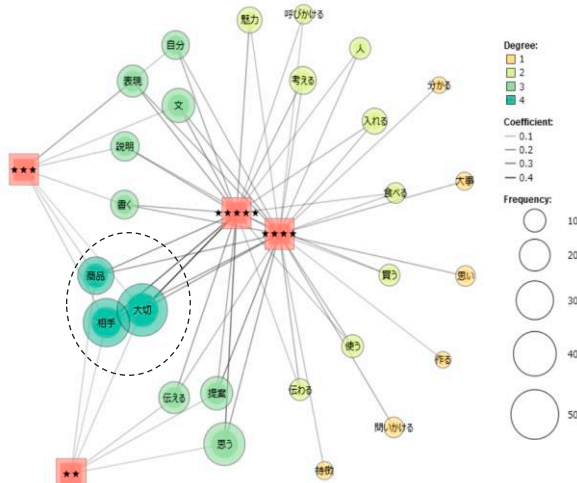


図 8 「達成度」と抽出語の共起ネットワーク

ここでは「商品」「大切」「相手」という語が全ての外部変数とつながっている。その中でも「相手」という語においては「相手の立場に立つ」「相手に呼びかける」「相手を意識した表現」という意見が多く見られた。また「商品」では、商品の説明だけでなく自分の商品に対する思いや相手を思いやった表現が大切であるという記述が多数見られた。生徒の記述を表 3 に示す。

表 3 生徒の記述(抜粋)

- ・You など相手を主語にした表現や相手への呼びかけが必要だとわかった。
- ・ただ商品の説明を淡々とするのではなく「買いたいな」と観光客に思ってもらえるようなわかりやすさや問いかけが大切だと思った。
- ・アピールポイントを入れることはもちろん大切だけど、呼びかけなど相手に開拓させる工夫や表現を使うことが大切だと思いました。相手のニーズに答えられるポイントも入れることも大切だと思いました。
- ・問いかけの文を入れて相手のことを考える表現が提案するときに魅力的な文になると思った。誰をターゲットにして考えて作ることが

このことから、相手に商品を提案するときには、商品だけの説明を伝えるのではなく、相手への呼びかけや気遣いが大切なポイントであることに生徒たちは気づき、それを提案文に取り入れることで、さらに魅力的な提案文になるということを経験を通して見出すことができた。

3.2. 考察

アンケート結果から生徒たちは自分の思考を整理しながら内容を構成していくことができていたのではないだろうか。授業時、代表者の発表をふまえての全体での話し合いでは、「どういった表現だと鳥取らしさが伝わるか」、相手を意識した文章として、「相手への問いかけ」「Why don't you~?」など相手を誘うような表現を使えば提案文がより魅力的になる」という意見が生徒たちから出てきた。これは教科書には紹介されておらず、クラスの話合いから出てきたものである。生徒たちは話し合いという協同探究を通して、お互いの気づきを共有し合えた。そして、提案文での適切な英語表現に気づき、自身の学びに繋げていった生徒が多くいたのではないだろうかと考えられる。

4. まとめと今後の課題

本研究では、設定された場面・条件の中で、これまでの学習をもとに自分が考案した商品を「誰に・何を・どのように」発信するかを生徒一人一人が思考しながら英作文に取り組めたか、そして他者との話し合いで得た気づきから個々の表現をさらに深めていくことができたかをアンケートから考察した。「書く」活動では、書きながら自分の思考を整理し内容を構成していくことができる。今回は、教師が課題に対する条件を出し、生徒自身が考え、原稿内容を考える表現活動であった。しかし、発表などの「話す」活動になると、その場で自分の考えをまとめる「即興性」が必要となってくる。今後は、「話す」活動にも重点をあてて、相手を意識した表現活動に取り組んでいきたい。

参考文献

- 林真希(2023)“相手を意識した表現活動～プレゼンテーション活動における「やりくり」～,”鳥取大学附属中学校研究紀要, 54:87-90.
- 樋口耕一・中村康則・周景龍(2022) 動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング.ナカニシヤ出版
- 藤村宣之(2018) 協同的探究学習で育む「わかる学力」—豊かな学びと育ちを支えるために—.ミネルヴァ書房
- 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 外国語編